

特集

このままでいいのか臨地実習

現場の課題と、そこでの工夫

臨地実習の今日的課題 現場はどう思っているのか ————— 大場エミ

地域看護実習に関する意見交換会 大学と現場が実習のあり方をともに考える ————— 尾形由紀子

臨地実習の調整の工夫 県の立場から ————— 梶尾厚子

実習紹介：わたしたち、こんな実習をしています

① 4年制大学における実習

山形県立保健医療大学 ————— 菅原京子・ほか

② 修士課程における実習

東京大学大学院修士課程「保健師コース」 ————— 村嶋幸代

英国における保健師の実習 ————— 岡本玲子

編集後記

●いま、「下町」がアツイ(らしい)。書店に行くと、「下町散策マップ」の類が多々見られます。都心では再開発が乱立している東京ですが、残された古き良きまちが日本人の心を捉えているようです。なかでも「谷根千」は専門誌が創刊されたほど人気の下町散歩コースの1つ。「谷中」「根津」「千駄木」の頭文字をとった谷根千ですが、歩いてみて驚くのは外国人が多いこと。古き良き日本を再評価しようという日本人と、日本を初めて知ろうという外国人観光客が交差するアンビバレントな異空間。観光地になれば、下町も下町でなくなってしまう悲運に、何ともいえない寂寞を覚えました。

谷根千からも近く、弊社がある「本郷」も下町の1つ。古くは、樋口一葉、宮沢賢治、石川啄木など文人が居を構え、明治時代からの老舗店が現在も存在します。通りや坂の名前に当時の名残があり、散歩してみると思わぬ発見に出会えます。

さて、保健事業を展開するなら、下町、山の手、どちらがいいですか? 「下町的コミュニティづくり」「山の手的エンパワメント」なんて地域性を考慮したアプローチ方法を追求するのも面白いかもしれませんね。(和田)

●災害や事故、犯罪などは、ある日突然訪れ、一瞬にしてそれまでの生活を破壊してしまいます。遠くから見ていると「そのとき」だけがクローズアップされがちですが、よく見ると、実際には「起こる前」「起こった後」がちゃんとあって、人の暮らしも、業務も、連続性があるのだと気づかされます。

今回の特集では、新潟県中越沖地震のとき、実際に現地で活動された方々に「そのとき」なにが起こったかを書いていただきました。しかし読んでみると、「起こる前」からの備えなくしては対応できず、「起こった後」を見据えなければ支援の方向性も定まらないことがわかります。それは特集後半で、震災への備えを語っていただいた皆様も意識されていることでした。

「起こる前」はどうしても現実感も切迫感もないものですが、そんなときの行動が、「そのとき」の成否や、「起こった後」の人生を左右します。振り返ってはじめてわかることかもしれませんが、次の「そのとき」に後悔しないよう、いまできることをしていかなければと思いました。とりあえず私は、次の締切に備えて編集後記のネタを探しに出掛けてみようと思います。(栗原)

保健師ジャーナル 第64巻4号 2008年4月10日発行(毎月1回10日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd, 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2008, Printed in Japan

1部定価1,365円(本体1,300円+税5%) 2008年ぎめ予約購読料15,000円(税込、送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部(03)3817-5657 社内案内(03)3817-5600

保健師ジャーナル編集室(03)3817-5774 電子メールアドレス hokenshi@igaku-shoin.co.jp 担当/和田・栗原・安部

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670、FAX03-3815-8199)の承諾を得てください。1348-8333/08/¥250/論文/JCLSが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCLS宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。